第21回

キジカケル突撃レポート！

～ソーコ　カカカって何なのさ？編～

市民の方から「SOKO KAKAKA」を調べてほしいという依頼が舞い込んで来ました。「そーこ　かかか？」なんじゃそりゃ?!暗号かな？よく分からないけど、とにかく調べてみよう。

いざ！キジカケル！

調べてみると、「SOKO KAKAKA」は、川内川河川敷にある西開聞町の旧ボート部艇庫の旧レガッタハウスを改修したものだということが分かりました。

早速、足を運んでみると倉庫の管理者である田尾友輔さん(30)にお会いすることができました。話を聞いてみます。

田尾友輔さん

スタートは、リバーフロントマルシェ

田尾さんは、2017年に、平佐にあったスマートハウスの管理人として、東京から地元である本市に戻ってきました。

そのスマートハウスのプログラムの中で、農家の方々の課題としてあった「生産者が消費者と対面して商品の魅力を伝える場」の提案としてスタートしたのが、川内川河川敷で開催する「リバーフロントマルシェ」と銘打ったイベントでした。

年に1回のマルシェは、それから4回、5回と回を重ねるうちに、次第にそのコンセプトを当初の「生産者が消費者と対面して商品の魅力を伝える場」から、リバーフロント(川の前・そば)という名前の持つ意味をもう一度見直し、人がいない川内川に、日常的に、そしてたくさんの人に来てもらいたいという思いで「川内川の魅力をまちの魅力に」というコンセプトに転換していきました。

リバーフロントマルシェの新たな可能性それがSOKO（ソーコ） KAKAKA（カカカ）

リバーフロントマルシェの成功により、川内川にたくさんの人でにぎわう風景を取り戻すことはできましたが、それはあくまでも一時的なもの。

日常的にたくさんの人に川内川に来てもらうためには、年に1回のマルシェだけでは、難しいと考えた田尾さんは、ちょうど川のそばにあったボート部艇庫の旧レガッタハウスを拠点施設として改修し、そこから、毎週さまざまな発信をしていくことを考えました。

そうして誕生したのが「SOKO KAKAKA」なんです。

❶大人も楽しめるライブイベント「SOKO de LIVE」
❷アート作品作りを体験「SOKO ART CLUB」
❸川内川でゆとりある朝の一杯を。「GOODMORNING SENDAIGAWA」
❹出店イベントでは、ジェラートなどの飲食店やアクセサリーなども。

川（かわ）る　交（か）わる　変（か）わるのキーワード

KAKAKAは、「川る、交わる、変わる」の頭文字で、川辺で人が交流し、まちが変わっていく、作られていくという意味が込められています。

主軸となる毎週日曜日の出店イベントだけでなく、夜のライブイベントやアート体験などさまざまな魅力を発信し続け、訪れた人は、河川敷の公園で休憩したり、川内川を眺めたり、子どもたちと遊具で戯れたりしています。

そこには、田尾さんが見たかった風景が確かに広がっています。

SOKO（ソーコ） KAKAKA（カカカ）のさらなる発展と未来へ

SOKO KAKAKAは、これから、レンタルスペースとしてのさらなる活用も見据えて日々進化を続けています。

田尾さんは言います。「レンタルスペースとしての活用を図ることで、自分がいなくても、ここを使用するみんなで運営していけることが理想です。また、そうすることで、いろんな表情を見せることができると考えています。

将来的には、ここだけの場所に限らず、川内川が通っている全ての市や町が同じ目的で参画し、『川内川流域全体に人のにぎわいの創出を図ること』それが私の目標です」

田尾さんの挑戦は、川の流れのようにまだまだこれからも続きます。

▲インスタグラム

▲フェイスブック